2026年　第2回　福・才木・安田旗ジュニア少年少女選手権大会大会規定

① この大会は当該年度の「公認野球規則」及び神戸市少年団野球リーグのルール及び
各少年団野球リーグ地区委員会規則、各少年野球連盟規則、「全日本軟式野球連盟
競技者必携学童野球に関する事項」並びに下記細則により試合を行う。
DH制は採用しない。
試合は5回戦とし、70分を過ぎて新しいイニングに入らない。
同点の場合は、最終イニング出場の18人で抽選により勝敗を決める。
時間が経過して同点の場合は抽選により勝敗を決する。

② 点差によるコールドゲームは、3回10点、4回7点とする。
降雨、日没等、審判団協議により試合続行不可能となった場合は、
４回終了時後であれば試合は成立する。
但し、日程調整等のため連盟会長又は連盟執行部の判断により継続試合とする場合がある。
その時は異議を申し立てることは出来ない。

③ 全ての試合において投手の球数制限を60球とする。
牽制球・投球練習球は投球数に含まない。過失により制限された投球数を
超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚ペナルティーは無い【注】参照
試合中に60球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。
【注】投球数のカウントは、本部が行う。残り10球に到達すると、本部は守備側チームに伝える。
もし、チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、
本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱える事は一切出来ない。
ただし、試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障が起きた場合は、
チームがカウントしていた投球数を参考にして本部が投球数を確定する。

④ 選手の集合は試合開始予定時間45分前とする。
ベンチは若い番号が1塁側とする。ただし、本部の指示が優先する。
試合中にベンチに入れる指導者は5人を限度とする。
指導者の背番号は28番～30番までとし監督は30番とする。
監督(30番)不在の時は、28番又は29番が監督を代行しても差し支えない。
45分前に本部にメンバー表を3部(対戦チーム、球審、本部分)提出し、
先攻後攻のトスを行う。
投球練習は、初回及び交代時は5球、その他は3球とする。
シートノックは4分間とする。(準々決勝から行う。但し、本部の指示で行わない場合がある)

⑤ ボークは、適用しないが攻撃側が不利益を被ったと審判員が、判断した場合は
ノーカウントとして走者を戻し監督と投手に指導する。

⑥ 監督には抗議権はない。ただしプレーの確認は出来る。
投手が投球姿勢に入った際には、ベンチから（選手、指導者を問わずグラウンド内
及び隣接する応援エリアを含む）投球を妨げるような声援は禁止する。
（応援歌は差し支えない）

⑦ バッテリー間14m・塁間21m　ホームランラインは原則として60メートル以上とする。
会場によっては本部の指示に従うこと。
少年用ハイコンJSBB刻印（複合）バットの使用には差し支えない。（木製バットの使用には
差し支えない）但し、一般用ハイコン（複合）バットの使用は出来ない。

⑧ 審判は相互審判を原則とする。
服装はそれぞれの地区委員会・各連盟の審判服を着用すること。
※前・後審判であっても若番が球審、2塁審(縦)を行う。

⑨ 大会会場には、責任者を必ず配置をすること。

⑩ 雨天中止の決定は、午前7時30分に行う。各チームは大会本部に確認をすること。

⑪ グランドで起こった負傷については、大会会場の責任者が応急処置は行うが、
それ以外の責任は一切負わない。
事故など無いようにチームで充分注意を払うこと。

⑫ 試合球は出来る限り本部で用意するが、本部の指示で試合チームから
試合球の提供を求める事があるので用意をすること。
※試合球は、ナガセケンコーを使用する。

⑬ **決勝戦のみ**時間経過又は規定回数終了で同点時は、1アウト満塁（選択打順）での
タイブレークを1イニングのみ行う。それでも同点時は最終イニング出場の18人で
抽選により勝敗を決める。（得点差のコールドゲームも採用する）

20260810